

(様式第4号)

川西地域協議会 会議概要

1 審議会名	第4回川西地域協議会
2 日時	平成30年11月20日 午後1時30分から午後3時43分まで
3 会場	川西地域自治センター まちづくり活動拠点会議室
4 出席者	赤羽武幸会長、岡崎舜一委員、小田朋香委員、神田けさ江委員、塩本幸子委員 久保田直子委員、倉林雅子委員、小泉満彦委員、今佐津雄委員、若林みゑ子委員 篠原奈緒美委員、田村実英委員、西澤仁史委員、林秀子委員、栗林一夫委員 白鳥隆夫委員、高田正彦委員 計17人
5 市側出席者	宮下センター長、上原地域振興政策幹、酒井係長、小山主査
6 公開・非公開	公開 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	1人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成30年11月30日

協議事項等

- 1 開 会 (塩本副会長)
- 2 あいさつ (赤羽会長)
- 3 事務局からの報告 (欠席者3人、会議成立、傍聴者1人)
- 4 会議事項
  - (1) 連絡事項等
    - ・ 前回会議記録 承認
  - (2) 協議事項
    - ア 新生「上田市」建設計画の変更に関する諮問について  
諮問：  
公共施設整備事業に合併特例債を活用するには、その事業が新生「上田市」建設計画（新市建設計画）に位置付けられていることが必要である。新市建設計画は、合併特例債を活用できる期間が平成24年に延長となったことで、計画期間も変更された。今年4月に再度5年間の延長が決定したことから、本計画の期間も同様に延長したいというもの。（政策企画課、財政課）  
< 質疑 >
      - (委員) 計画延長後に予定している主な事業は何か
      - (回答) 早期建て替えが必要な施設等を予定している。ただし、事業選択は慎重に行いたい。
      - (委員) 今後使える金額はいくらか。
      - (回答) ハード事業390億円のうち使用したのは317億である。（残り73億）
      - (委員) 上田市の財政見込との関係はどうか。
      - (回答) 現在の財政状況は、計画策定時の推計より収入が多くなり、支出は減少している。さらにこれに加え合併特例債が使えることは財政的に有利である。
    - < 審議 >  
諮問された「計画の変更」については大筋で承認された。  
なお、答申書については期間を置いて、特に問題がなければ市へ提出することとした。
  - イ わがまち魅力アップ応援事業について  
「越戸日向山等里山整備と里山保全活動」に係る竹等粉碎機の取り扱いについて  
説明：酒井係長  
意見 \* 粉碎機は高額であり「導入固定資産」とすべきではないか。 自治会なので不要  
\* 償却資産としての扱いについて調べておいてもらいたい。  
\* 仕様書の中に、怪我等をした場合に責任は負わないことを明記するよう越戸自治会に伝えてもらいたい。

ウ {研修} 農産物の6次産業化について

説明：農産物マーケティング推進室

< 質疑 >

(委員) 棚田は作業効率が悪いが酒米の質はどうか。

(回答) 米の等級は2等で問題ない。酒蔵(岡崎酒造)では地元の棚田の米を使っていることをブランドにして販売しており、棚田を支援してくれている。

(委員) 「うえだみどり大根」販売の方策はどうか

(回答) 商談会等においてスーパーや外食産業等に売り込んでいる。PR動画も作成した。

(委員) みどり大根の栽培と販売の具体的な動きはどうか

(回答) JA 信州うえだが栽培関係と販売を担っている。

(委員) 川西地域では農作物に対する獣害がひどいが、棚田はどうか。

(回答) 獣害はあるが、営農だけでなく景色・観光面での棚田でもあるので、それも含めた保全活動を行っている。

(委員) 上田独自の商品に、専用のロゴを使用したらどうか。

(回答) 六文銭のロゴがあり使用している商品もあるが、今後力を入れていきたい。

エ その他

\* わがまち魅力アップ応援事業平成29年度事例集の配布

意見：事例集の印刷製本にお金をかけ過ぎているように見える。より安価で内容のある事例集とするよう要望する。

\* 既に全戸配布された、「地域協議会だより第9号」の確認

オ 次回の協議会の予定について

・ 緊急案件が無ければ、平成31年3月5日(火)午後1時30分とする

5 閉 会 (塩本副会長)